可視化情報学会全国講演会（米沢 2009）の開催にあたって

可視化情報学会会長

青木 克巳

Message of the President at the Opening of Yonezawa, 2009

Katsumi AOKI

可視化情報学会全国講演会「米沢 2009」開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

可視化情報学会は 1973 年に第 1 回流れの可視化シンポジウムが開催されたことに端を発しています。その後、1981 年 3 月に「流れの可視化学会」として本学会はスタートしました。その翌年(1982 年)に長崎で開催されて以来、沖縄から北海道まで全国の各地で開催されてまいりました。その後、法人化を果たし、1990 年 2 月に「(社団法人)可視化情報学会」に改組され、現在に至っています。可視化情報学会は、近年の厳しい社会情勢、価値観の多様化にも何とか対処しながら、ほぼ順調に発展し、本年は法人化 20 周年を迎えるという、学会史上に意義ある年であります。現在、夏には東京で「第 37 回可視化情報シンポジウム」を開催し、秋には東京を離れて「全国講演会」が開催されています。

本年は法人化設立 20 周年の記念すべき年に全国大会の地として山形県米沢(会場:山形大学)が選ばれ、多くの会員が参加され討論と親交の環が広がりますことは、大変喜ばしいことであります。

今年の講演会は 2 日間に渡って開催されます。特別講演 1 件、一般講演 135 件で論文講演の数もこれまで以上に増加しています。これらの発表が 11 分野のオーガナイズドセッション「OS1 知的可視化情報処理」「OS2 ウェブレット高次応用」「OS3 サイエンティフィックアート」「OS4 機能性流体の可視化」「OS5 PIV」「OS6 数値可視化手法による熱流動可現象」「OS7 混相流」「OS8 渦・はく離・後流の可視化」「OS9 流れ・音・振動の可視化」「OS10 EXCEL 表計算機能を用いたシミュレーションと可視化」「OS11 マイクロ流動の可視化」、一般講演セッション「可視化技術の開発・研究、可視化手法の応用例、可視化情報処理、その他」で行われます。参加者の皆様にとって、これまでにない密度の高い講演会になることと期待しています。

特別講演は 1 件となりましたが、今回は、ナスカの地上絵プロジェクトメンバーの坂井 正人先生(山形大学人文学部)により世界遺産に指定されているナスカの地上絵に関し「ナスカの地上絵:人工衛星画像と現地調査をめぐって」と題してご講演いただくことになっております。ペルーのナスカ川とインヘニョ川に囲まれた盆地状の高原の地表面に「描かれた」幾何学図形は何の目的で、誰が描いたのだろうか。謎に包まれた地上絵にまつわる興味深いお話を伺えるものと楽しみにしております。これらの講演会を通じて有意義な情報交換と情報発信がなされることを期待しております。

最後に、本シンポジウムの企画、開催、運営、にあたり多大なご尽力をいただきました李鹿 輝委員長、奥山 正明幹事をはじめとするシンポジウム実行委員会の委員各位、山形大学及び関係者の皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。